1993年8月29日

安祥寺下寺跡推定地発掘調査の概要

(財)京都市埋蔵文化財研究所

調査地　京都市山科区安朱中小路町・安朱北屋敷町

調査期間　1993年5月10日～継続中

調査契機　京都市高速鉄道東西線の建設工事

調査面積　約700㎡

調査概要

調査地は嘉祥元年(848)に建てられた安祥寺*1に推定されているところです。安祥寺は醍醐寺と同じように山側の上寺と平地の下寺にわかれます。そのうち下寺は旧三条通りを南限としてＪＲ山科駅前付近に推定されています。安祥寺の伽藍その他に関しては、貞観十三年(871)の『安祥寺伽藍縁起資財帳』に詳細な記録が残っていますが、今回の調査では確実に安祥寺にかかわる遺構は発見されませんでした。安祥寺はその資財帳によれば最盛期には10町以上の寺地を占めましたが、応仁の乱によってそのほとんどが焼亡したとされています。現在その一部が御陵平林町の安祥寺として法灯を伝えています。

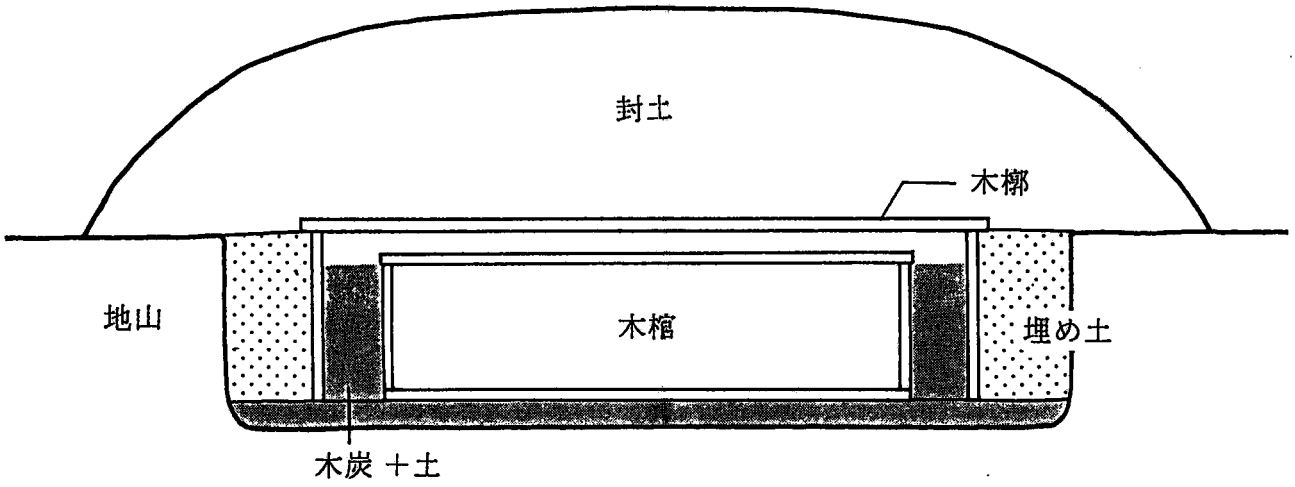
さて、調査は京都市高速鉄道東西線の建設を契機とするものです。これまでに仮歩道の南側などの調査を終了し、江戸時代の柵列、井戸、墓、石室(ｲｼﾑﾛ)、胞衣壺(ｴﾅﾂﾎﾞ)、堆肥孔などを確認しました。現在調査を進めている調査区では、平安時代以前かとみられる建物跡１棟、柵列、柱穴、平安時代前期の古墓、溝などがみられます。以下、このうち古墓について概要を記します。

古墓について

１　古墓の構造

ａ　内部構造

古墓は墓壙を掘削したのち底に炭を敷き、その上に木棺と木槨を据え、木棺と木槨のすきまを木炭と炭で充填するものです(古墓概念図参照)。墓壙は東西340cm、南北200cmあり、木槨は長さ265cm、幅140cm、木棺は長さ196cm、幅96cmと推定できます。木炭を槨とする構造の墓は、これまでに京都を中心に本例を含め７例発



復原断面模式図

見されていますが、木槨を確認したのは本例がはじめてです。平安時代の文献に記載されたこのような種類の墓*2と細部までは一致しませんが、よく似た構造の墓です。

b 外部構造

古墓の上部はすでに削平されていましたが、墓壙内に落ち込んだ版築状の土層から墳丘の存在が考えられます。いっぽう、墓壙の外側には南側が開いたコの字状(南北約13.5m、東西約9.5m)の段状遺構があります。段の方向が墓の主軸方向と一致する点、段によって区画される平坦地の中心に墓壙がぴったり収まることなどから古墓に関連する施設と推測されます。また墓壙から約22m南側に墓やコの字状の段状遺構と同じ方向をもつ東西溝一条が調査区を横切っています。これもその方向から古墓に関連する溝と推測され、墓域を画する溝の可能性があります。このような古墓にともなう外部施設を確認したのは本調査がはじめてです。

2 出土遺物

出土した遺物は白銅鏡、乾漆製品、土師器の杯・皿類９点、棺釘類60本以上、不明鉄製品などです。断定はできませんが、その出土状況から棺釘以外の遺物はすべて棺あるいは槨の蓋の上におかれたものがその蓋が腐って転落したものと考えられます。

白銅鏡は破砕された鏡の一部で、文様は龍を描いたものと思われます。

乾漆製品は少なくとも２種類が確認できます。一つは鏡を中心として広がるもので麻布に下地を塗りさらに黒漆・赤漆を塗ったものです。もうひとつは棺の南西隅から木芯に「布きせ」をし、下地・黒漆をぬった帯状と推測される製品が出土しています。いずれも形が崩れておりどのような製品になるかは分かりませんが、前者は鏡箱の可能性があります。

３ 被葬者の性格

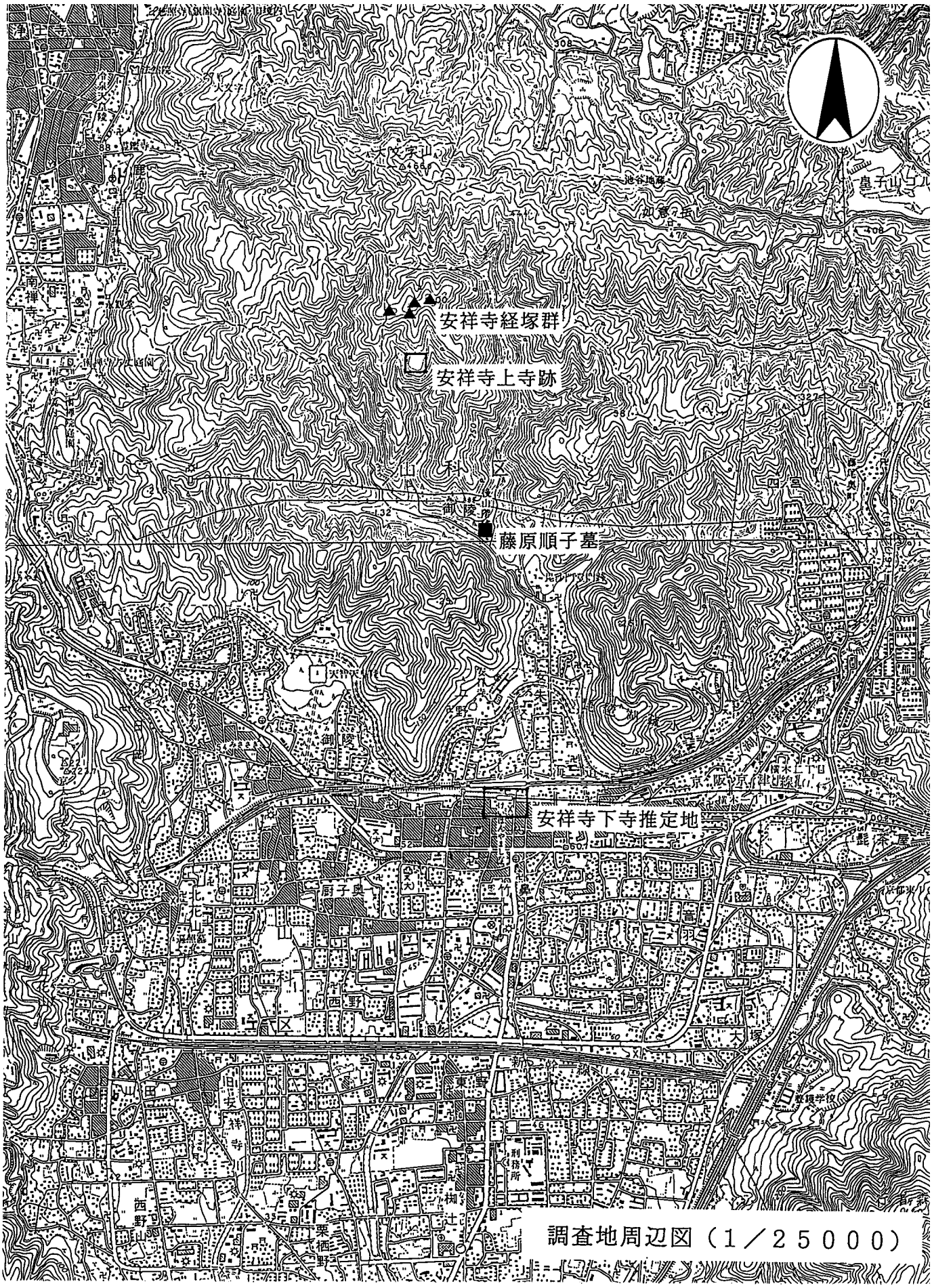
被葬者については現在までのところ、墓誌を発見していないため明らかではありません。また、被葬者の性別も不明です。しかしながら、墓が山科盆地のほぼ中央北辺、東海道に面した絶好の立地条件にある点、一定の広さをもった墓域を持つ点、これまで発見された古墓の多くは丘陵上に位置するのに対して平地にある点、白銅鏡・乾漆製品などが出土している点から、山科と関わりの深い相当高位の人物の墓と考えられます。また安祥寺（下寺）の伽藍の位置は不明ではありますが、『安祥寺伽藍縁起資財帳』の記述から本調査地が安祥寺の寺領内にあったと推測され、安祥寺と関わりをもつ人物の墓である可能性も考えられます。

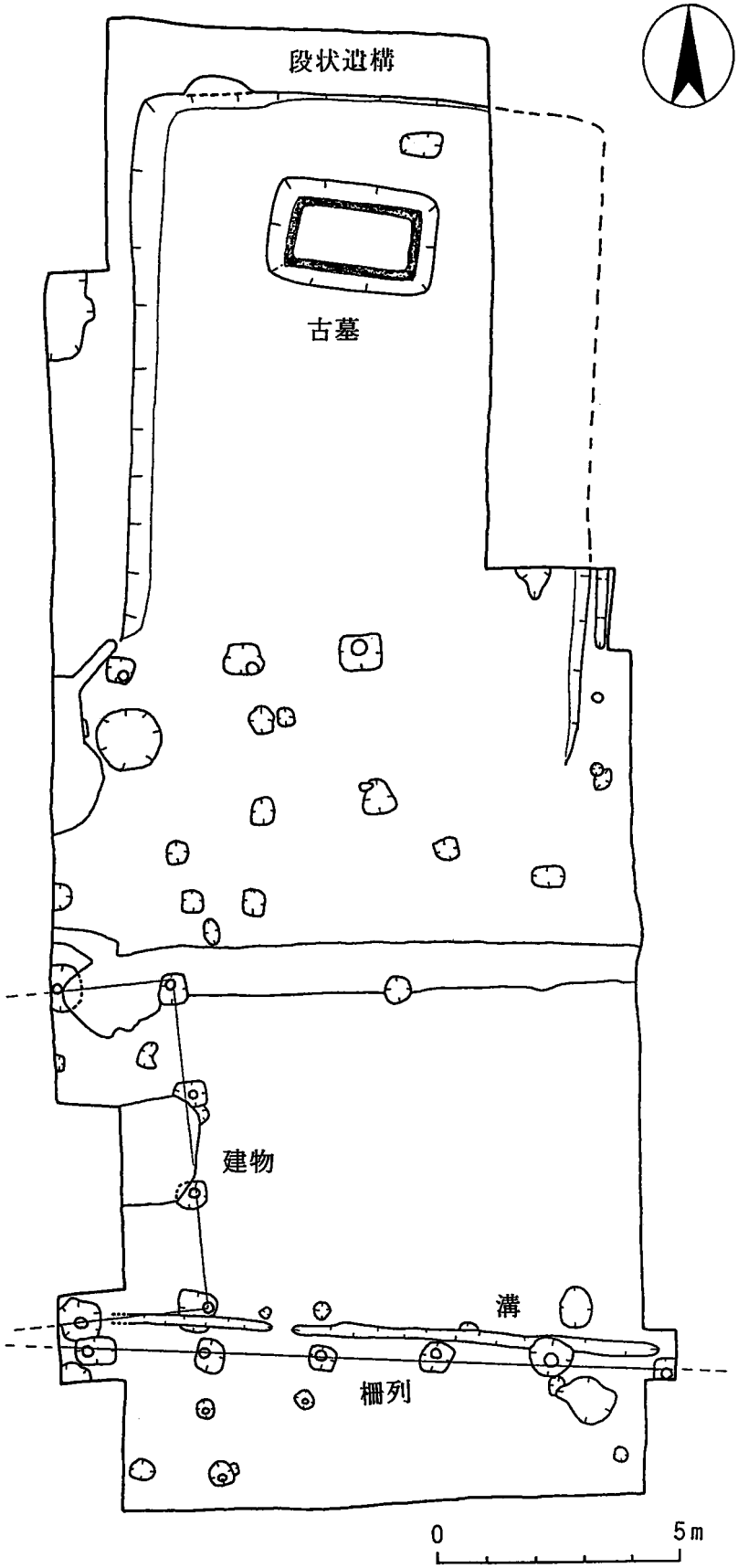
４ まとめ

以上のように、今回の調査では木炭槨墓における木槨、そして古墓にともなう外部施設をはじめて確認するなど貴重な資料を提供することになりました。とくに文献記録にみえる墓の様相を実際に遺構としてはじめて確認できたことは平安時代の墓制を考える上で大きな成果といえます。また遺物においても良質な銅鏡を破鏡として供献する点、乾漆製品が古墓からはじめて出土した点など新知見を与えてくれました。

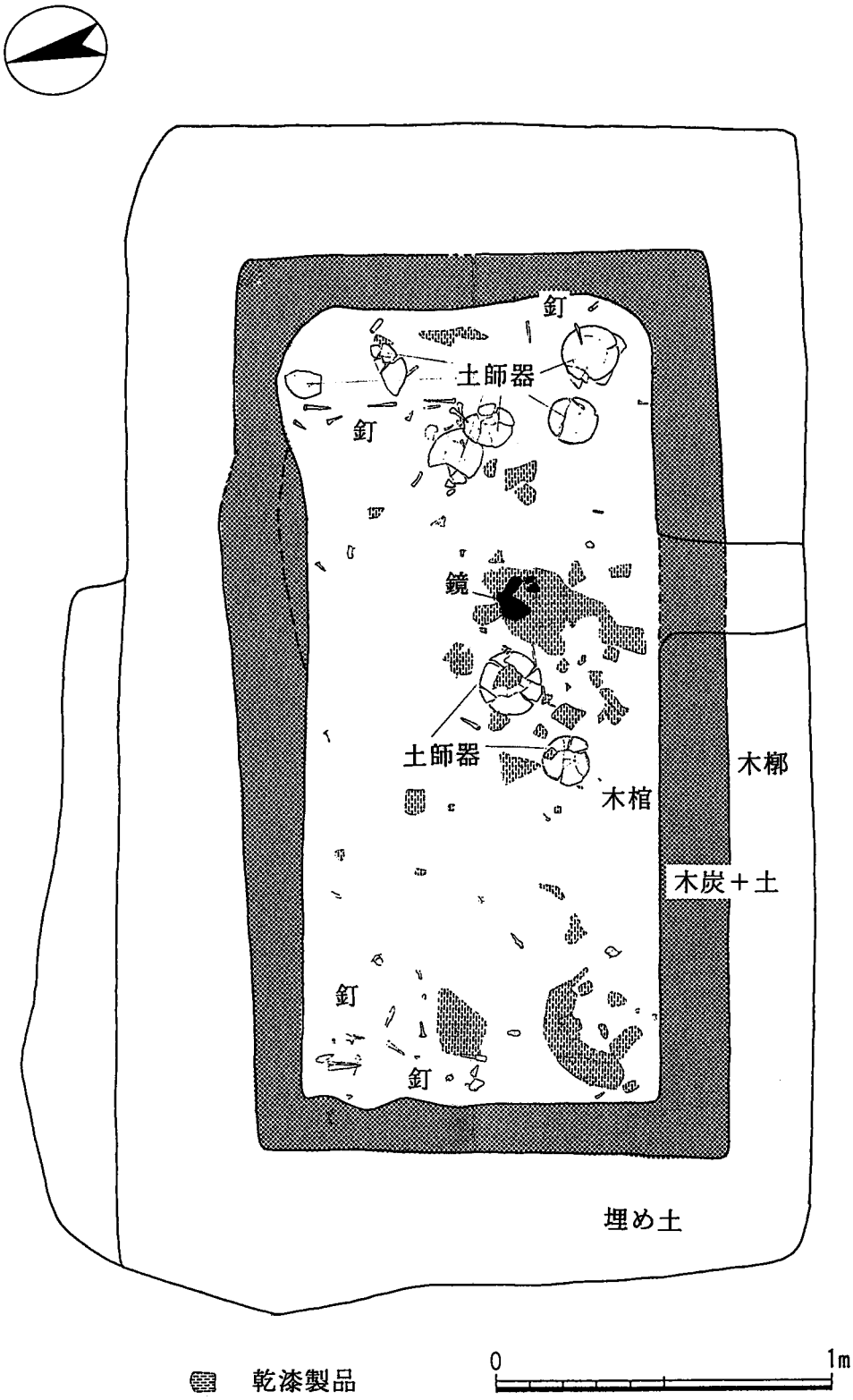
＊１　藤原順子(文徳天皇の母)の発願によって恵運僧都を開基とした寺。

＊２　『続日本後紀』承和九年(842)七月一五日条に嵯峨上皇の喪葬に関する遺詔の記事があり、その墓については「重以棺槨 繞以松炭」（棺･槨をかさね、松の炭をめぐらす）との記載がある。


安祥寺経塚群
安祥寺上寺跡
藤原順子墓
安祥寺下寺推定地
調査地周辺図（1／25000）

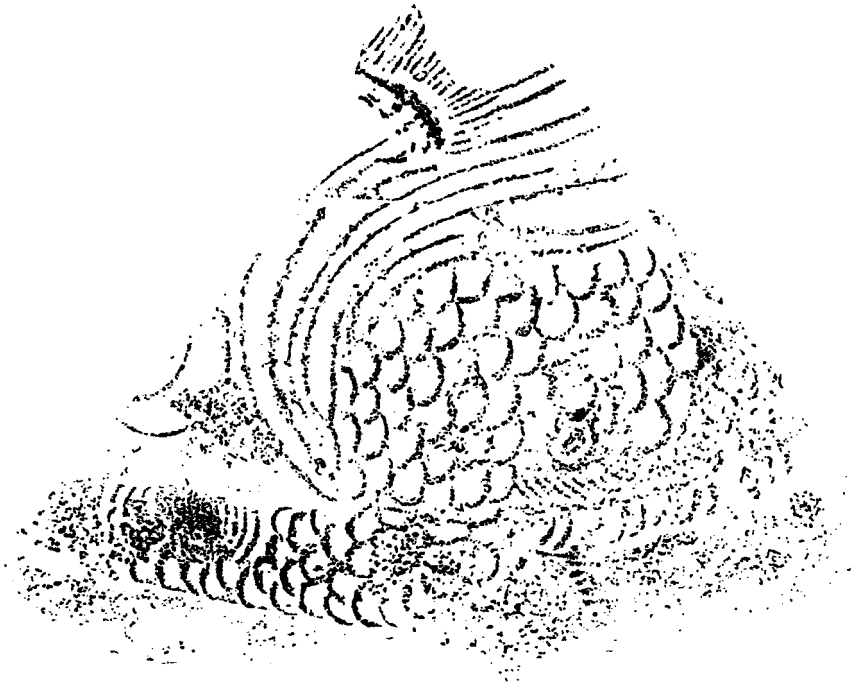


遺構平面図



古墓平面図（1/20）

古墓ー南から



銅鏡の拓本（実物大）